（第3種郵便物認可）

R6

卒業式で今年も贈呈

岡崎・生平小 赤飯に笑顔

思いのこもった赤飯をもらって喜ぶ
６年生＝岡崎市生平町の生平小で

県内の全ての公立小学校で卒業式が行われた19日、岡崎市生平町の生平小学校では、６年生や保護者らにお祝いの赤飯が贈られた。赤飯に使うもち米は、５年生が中心となって苗から育てるのが同校の伝統。思いのこもった祝いの品に、卒業生からは笑みがこぼれた。

同校で10年以上前から続く取り組み。本年度も学校近くの田んぼで、２、５年生と特別支援学級の約30人が地元のボランティアに教わりながら、田植えや収穫に励んだ。

そのもち米を使い、地元の和菓子店「昭和堂」（茅原沢町）の職人が前日夜に赤飯を炊き上げ、この日早朝に在校生らを含む約１１０人分に分けてパック詰めした。児童たちが手がけたもち米には欠けや割れがあったが、「気持ちがこもった温かい味」と職人ら。店の３代目の榊原伸久さん(52)は「６年間の学校生活を思い出しながら食べてもらえたら」と思いを込めた。

早朝から大量の赤飯をパックに詰める職人たち＝岡崎市茅原沢町の昭和堂で

茶南山園
アビタ安城南
ヴェルサウォーク西尾
製造元

卒業式を終えて教室に戻った６年生８人は、先生から赤飯を受け取ると「お昼に食べようかな」と笑顔。杉山翔護君(12)は「地域の方の協力でできたふるさと学習がいっぱいある。友人や先生、多くの方への感謝を忘れずにいたい」と喜んだ。

米を育てた５年の畔柳春之介君(10)も「田植えの時は泥に埋まって大変だったけどプレゼントできてうれしい」、杉田陽菜さん(11)は「私も学校を笑顔にできるような６年生になりたい」と顔をほころばせた。

（杉山果奈美）